

元気からだ! Q&A

認知症の予防薬

最新の治療薬について

千葉県医師会理事

細井尚人 医師

Q 具体的な薬とその効果は？

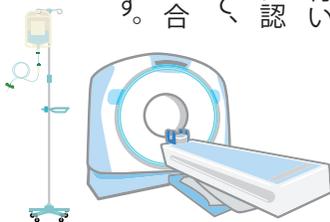
A 2023年12月からアルツハイマー型認知症の新しい治療

薬として「レカネマブ」という薬が保険で使えるようになりました。対象者は軽度認知障害・軽度認知症の方です。効果は、脳内に蓄積するAβ（アミロイドベータ）蛋白（たんぱく）という異常な蛋白を取り除くことで、神経（脳）細胞の变性を防ぎ、認知症の進行を抑えます。

Q 新薬は、「認知症の種類」や「病気の進行状況」によって使用制限はあるの？

A 適応はアルツハイマー型認知症です。まず、医療機関で診

察を受け、軽度の認知症症状と脳内にAβ蛋白が確認されると適応になります。2週間ごとに点滴治療を行います。副作用でMRI上に軽度の脳浮腫や脳出血を認めることがあるので、定期的なMRI検査を行います。半年ごとに認知機能を評価して、著しく低下した場合、中止になります。原則18か月までの投与です。



Q 近い未来の治療について

A 今回、原因とされる物質の除去が初めて可能になりました。

今後は細胞内に蓄積するといわれる別の物質（タウ蛋白など）の除去なども研究が進んでいます。また、アルツハイマー型認知症以外の認知症についても、動脈硬化を遅らせることで脳細胞へのダメージを防ぐなどの治療が期待されます。

Q 認知症で入院するケースはどんな病状のときなの？

A 認知症の人も病気になるったり、けがをして入院することがあります。認知症の人は入院すると、より強くストレスに感じることがあります。できるだけ早く退院を目指します。また、精神状態が不安定になって自宅や施設でのケアが難しくなると精神科へ入院することがあります。落ち着いた精神状態で過ごしてもらうためには、不安や混乱を和らげる人や場所が大事になります。認知症の人にやさしい社会を目指しましょう。

